

2019年度
事業報告書

自 2019年 4月 1日

至 2020年 3月31日

一般財団法人 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

2019年度事業報告書

I. 総括

2016年8月、日本財団 TOKYO 展 2020(任意団体)として設立した当団体は、2016年10月3日、一般財団法人に移行した。2017年4月、これまで以上に全ての人が共に生活できる社会の実現をより一層加速させるため、新たに舞台芸術公演の開催を事業内容に加えることにし、団体名称を「一般財団法人日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」に変更した。

設立から四年目にあたる2019年度は、以下の事業を実施した。

- (1) 2020年度の企画展に向けて2019年7月に「LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイベント」を東京ミッドタウン・ホールAで開催した。プレイベントの開催実績を踏まえ、計画をゼロベースで見直すことになり、2019年9月以降、新規体制を構築し、新たな実施内容に向けて準備を行った。
- (2) 「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」の事業内容を広く周知するため情報発信に努めた。
- (3) 公募事業では、2018年度に公募した作品による展覧会「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018」を開催し、また2019年度事業として「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」を実施し、障害のある人にアート活動の機会を提供するとともに、広く社会に発信するために作品募集から展覧会の実施準備を行った。
- (4) 多様性をテーマにした舞台芸術のプログラムを計4本実施した。日本財団との連携・共催のもと、「True Colors Festival -超ダイバーシティ芸術祭-」と銘打ち、2020年夏に向けた一連の取り組みを行った。

II. 実施事業の概要

A. 障害者等によるアート作品の展覧会の企画制作

障害者と芸術文化への認知拡大や多様性の意義と価値を広く伝えることを主な目的に、2020年7月、東京オリンピック・パラリンピックの開催時期にあわせて、お台場の船の科学館を会場に2か月間の開催に向けて準備を行った。障害福祉やアートに接点の少ない一般層を主なターゲットとし、10万人（開催期間中の合計）の来場者を目標とした。

a. 2019年度プレ発表イベントの制作・開催

2020年度に開催予定の「LOVE LOVE LOVE LOVE 展」のプレイベントとして実施した。

障害者や現代美術家 16 組の作品を展示する他、出展作家 5 人による公開制作や計 8 回のトークイベントの実施したほか、ワークショップ等の参加型のコンテンツを充実させた。

名 称 「LOVE LOVE LOVE LOVE 展 プレイイベント」
期 間 2019 年 7 月 14 日(日)、15 日(月)・(祝)、16 日(火)
時 間 10:00～19:00 会期中無休
会 場 東京ミッドタウン・ホールA
所 在 地 東京都港区赤坂 9-7-2 ミッドタウンイースト B1F
主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS
監 修 小澤慶介 (一般社団法人アートト)
出展作家 16 組
出展作品 73 点
参加者数 1,287 名 (期間中延べ人数)

<関連行事>

(1) 公開制作

出展作家のうち 3 つのアトリエから 5 名の作家が参加し会場で作品を制作した。

工房集 7 月 16 日(火) 13:00～14:30
やまなみ工房 7 月 14 日(日)、15 日(月)・(祝) 10:00～16:00
るんびこい美術館 7 月 15 日(月)・(祝) 10:00～15:00

(2) ワークショップ『出張キッズドームソライ』

さまざまな素材や道具を使ってものづくりが体験できるワークショップ。

日 時 7 月 14 日(日)、15 日(月)・(祝)、16 日(火)
※各日 10:00～18:30 (最終日は 16:30 まで)

参加費 無料

(3) スペシャルワークショップ

アーティストを特別ゲストに迎えたスペシャルワークショップ。

参加費 無料

定 員 各回 10 名

A) 『航海図を描こう!』

日 時 7 月 14 日(日) 第 1 部 11:00～12:00 / 第 2 部 14:30～15:30

ゲ ス ト 占部史人 (アーティスト)

B) 『工夫して着る服「くふうく」』

日 時 7 月 15 日(月)・(祝) 14:30～16:00

ゲ ス ト 西尾美也 (アーティスト/出展作家)

(4) トークイベント

作家やクリエイターなど幅広い分野からゲストを迎えたトークイベント。

参加費 無料

定 員 各回 100 名

- A) 『愛、語っちゃおうぜ!』
日 時 7月14日(日) 10:30~11:30
登壇者 エリーローズ、
やっいいちろう (エレキコミック)
- B) 『つくる場をつくる』
日 時 7月14日(日) 13:00~14:30
登壇者 マシュー・ビード・マーフィー (LAND Gallery キュレーター)、
山下完和 (やまなみ工房施設長)、
小澤慶介 (本展キュレーター)
- C) 『ユニバーサルデザインをみんなで考えよう!』
日 時 7月14日(日) 15:30~16:30
登壇者 廣村正彰 (グラフィックデザイナー)、
岡本 健 (グラフィックデザイナー/本展グラフィック)、
貝島桃代 (建築家/本展会場構成)
- D) 『あなたと展覧会をつなぐ橋。アクセス・アート・プログラム』
日 時 7月15日(月)・祝 10:30~12:30
登壇者 梅田亜由美 (本展エドゥケーター)、
柴崎由美子 (本展アクセス・アート・プログラム統括)、
平澤 咲 (本展ボランティアコーディネーター)、
小澤慶介 (本展キュレーター)、
今野優紀 (日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS プログラムディレクター)
- E) 『愛についての2、3の断章』
日 時 7月15日(月)・祝 13:00~14:30
登壇者 小野正嗣 (作家・早稲田大学教授)、
西 加奈子 (作家)、
小澤慶介 (本展キュレーター)
- F) 『ともに、つくること』
日 時 7月15日(月)・祝 16:30~18:00
登壇者 瀬尾夏美 (アーティスト)、
砂連尾 理 (ダンサー・振付家/出展作家)、
小澤慶介 (本展キュレーター)
- G) 『アクセス・アート・プログラムのミライ!ここ東京から考える。』
日 時 7月16日(火) 10:30~12:30
企画協力 六本木アートナイト
登壇者 熊谷 薫 (六本木アートナイト実行委員会事務局)、
梅田亜由美 (本展エドゥケーター)、
柴崎由美子 (本展アクセス・アート・プログラム統括)
- H) 『「目から入る情報」のアクセシビリティを考えよう!』
日 時 7月16日(火) 13:30~14:30

登壇者 伊敷政英 (Cocktailz 代表)、
島影圭佑 (株式会社オトングラス代表取締役)、
萩原俊矢 (ウェブディレクター/本展ウェブサイト)

b. 2020 年度展覧会の企画・制作及び事前準備

2019 年 8 月、プレイベントの開催実績を踏まえ、開催計画や実施体制の刷新が必要となった。9 月、検討の結果、株式会社博報堂に企画制作・運営・PR・実行業務一式を業務委託すること、同時に開催期間中に船の科学館をライトアップすることを計画、その業務を株式会社石井幹子デザイン事務所に委託することを決定し、各社と打合せを実施してきた。しかし、2020 年 1 月に発生した新型コロナウイルスの世界的規模の蔓延により、2020 年のオリンピック、パラリンピックが 2021 年に延期となったため、展覧会事業も中止することになり、各社との契約も中止した。

B. 情報発信

ホームページや各種媒体を通じて、各種事業の情報発信に務めた。

a. Web メディア「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」

「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS」のメインサイトとして、取材・企画制作記事掲載を中心に、本事業関係イベントや情報を伝えるページを随時公開した。

今年度は取材記事 36 本を制作し、29 本を公開した。また関係イベントなどのニュース記事 55 本を作成・公開した。

年間総訪問者数は 123,353 人、ページビュー数 240,197PV (昨年度比+74,021PV) を獲得した。記事の英語翻訳と公開を進め、日本国外からのアクセス数が増加した。

サイトの UI (ユーザー・インターフェイス) 改善を施し、ユーザーにとってより見やすくするとともに、事業の広報を含めてより発信しやすい環境を整えた。

b. ソーシャルメディアとの連携

Facebook、Instagram と Web メディア「DIVERSITY IN THE ARTS TODAY」を連動させ、情報の拡散に努めた。2020 年 3 月末時点で、Facebook の「いいね」が 1,805 件、フォロワー数 2,092 人、Instagram のフォロワー数も 1,970 人に達し、堅実に数を伸ばしている。

c. 「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」の発行

Web メディアで掲載した記事を再構成し、「DIVERSITY IN THE ARTS PAPER」(タブロイド版、フリーペーパー)として、06 号と 07 号を発行した。発行部数は各号 15,000 部で、文化施設、福祉施設、学校、書店、カフェ等で配架した。全国での配架数と拠点は引き続き増加している。また、個人の購読希望者には送料を負担していただき送

付している。さらに今年度は、在庫僅少だったバックナンバーを再印刷して財団主催イベントでの配布と周知に努めた。

d. **メールマガジンの配信**

約 2,200 件のメールマガジン登録アドレス宛に、ほぼ月 1 回のペースで計 11 回のメールマガジンを配信した。

C. **「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」の実施**

a. **「日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018」**

2018 年度中に公募し、入選した作品を展示した展覧会を東京及び横浜で開催した。

(1) **展覧会の開催**

名 称 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展 2018

主 催 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS

共 催 社会福祉法人横浜市リハビリテーション事業団（横浜会場）

協 力 国際障害者交流センター ビッグ・アイ
Bunkamura（東京会場）

展覧会アートディレクター 中津川浩章 美術家／アートディレクター

会 場 <東京会場>

会期 2019 年 5 月 15 日(水)～5 月 26 日(日)

時間 10:00～19:30

会場 Bunkamura Gallery/Wall Gallery

<横浜会場>

会期 2019 年 5 月 29 日(水)～6 月 4 日(火)

時間 10:00～18:00 (2 日(日)は 17:00 まで、最終日は 15:00 まで)

会場 障害者スポーツ文化センター 横浜ラポール

内 容 <東京会場>

- ・受賞作品（12 点）、入賞作品（53 点）、国外佳作作品（4 点）、別枠作品（16 点）の展示

- ・「視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ」の開催

日時 2019 年 5 月 26 日(日)

A. 10:30～12:30 B. 15:00～17:00

講師 視覚障害者をつくる美術鑑賞ワークショップ

定員 各回 7 名程度

参加無料 要申込

<横浜会場>

- ・受賞作品（12 点）、入賞作品（53 点）の展示

(2) その他

- ・ 図録制作 (500 部)
- ・ 各種チラシ制作

b. 「第2回 日本財団 DIVERSITY IN THE ARTS 公募展」

障害のある人にアート活動の機会を提供し、有能なアーティストの発掘、支援を行い、社会に発信することを目的に、障害のある方を対象にアート作品の公募、審査及び展覧会を実施した。

(1) アート作品の公募

期 間 <国外募集> 2019年7月2日(火)~7月25日(木)

<国内募集> 2019年9月1日(日)~9月20日(金)

募集内容 国内外を問わず、障害のある方が制作したアート作品で過去に受賞歴のない作品。

応募点数 各作者につき3点以内

出品規格 絵画、イラスト、グラフィックデザイン、書、写真、造形など。
素材やテーマは自由。

平面作品 縦200cm×横120cm以内

立体作品 高さ200cm×幅150cm×奥行150cm 重量50kg以内

(2) 公募作品の審査・選考

審査員

秋元雄史 東京藝術大学大学美術館館長・教授/練馬区立美術館館長

上田バロン FR/LAME MONGER 代表/イラストレーター

エドワード M. ゴメズ RAW VISION 主任編集者

藏座江美 一般社団法人ヒューマンライツふくおか 理事

中津川浩章 美術家/アートディレクター

永野一晃 写真家

望月虚舟 書家

審査方法

<国外募集> 8月上旬に審査員による写真審査を実施。写真審査を通過したものは、国内応募作品とともに現物審査を行う。

<国内募集> すべて現物審査。審査員立会いのもと、応募された作品の中から、審査員賞/海外作品賞/入賞/佳作併せて126作品を選出

応募作品数 1,961作品 (国内応募1,641作品、国外応募320作品)

現物審査実施日 2019年10月14日(月)・(祝)

(3) 授賞式及び展覧会の開催

2019年度中に公募した入選作品の授賞式及び展覧会は、2020年4月、5月に開催予定であったが、いずれも新型コロナウイルスの感染拡大防止のため開催を中止した。

- ・ 授賞式

開催日 2019年9月11日(水)
場 所 東日本少年矯正医療・教育センター (東京・昭島市)
参加人数 50名

b. True Colors BEATS -Uncountable Beats Festival-

開催日 2019年10月22日(火)・(祝)
場 所 日本財団ビル
イベント・ディレクター
サンティアゴ・バスケス
ゲスト・アーティスト
ermhoi、xiangyu、岩崎なおみ、大友良英、角銅真実、勝井祐二、
コムアイ、高良久美子、芳垣安洋、フアナ・モリーナ、ミロ・モージャ
ゲスト・バンド
YAKUSHIMA TREASURE (水曜日のカンパネラ×オオルタイチ)、
Monaural mini plug
参加者数 来場者 300名
ワークショップ参加者 82名
YoutubeLIVE 視聴者 1,903名

内 容

アルゼンチンを代表する音楽家サンティアゴ・バスケスの指揮のもと、大友良英、コムアイ (水曜日のカンパネラ) らをゲストアーティストとして招聘し音楽ライブを実施した。イベント本番前の週末には、個性豊かな約100人により2日間のワークショップを展開。バスケスが考案した身振りを使った演奏指揮の方法「Rhythm with Signs」を用いて、障害、国籍、年齢など、さまざまな違いを超えたアンサンブルを組み上げた。

イベント当日は台風の接近に伴う大雨の影響により、イベント会場を急遽代々木公園から日本財団ビルへと変更した。当初予定していたマーケット及びワークショップの実施は一部を除いて中止となった一方で、会場のライブ配信を実施した。

c. True Colors JAZZ -異才 meets セカイ-

大阪公演

開催日 2020年1月4日(土)
場 所 ビルボードライブ大阪

東京公演

開催日 2020年1月6日(月)
場 所 ブルース・アレイ・ジャパン

熊本公演

開催日 2020年1月8日(水)

場 所 C I B
イベント・ディレクター
松永貴志
ゲスト・アーティスト
小澤綾子、紀平凱成、よよか
スペシャル・アーティスト
黒田卓也
アーティスト：

Derek K Short、ナカタニ タツヤ、Viorica Lozov、Juna Serita、
田中啓介

来場者数 大阪 450名 (2回公演)
東京 120名
熊本 110名 合計：680名

内 容

日本を代表するピアニストの一人である松永貴志がディレクターとなり、大阪・東京・熊本の3都市でジャズライブを開催した。出演者には、新進気鋭のピアニストであり、日本財団と東京大学が進める「異才発掘プロジェクト」ホーム・スカラーの紀平凱成をはじめ、10歳で世界のミュージシャンとの共演を重ねるドラマーのよよか、車椅子のシンガー小澤綾子を迎えた。

当初予定していた海外からの招聘アーティストの来日が叶わず、代替アーティストによる公演となったが、各会場ともに障害のある方、外国人、老人、子供、ジャズライブハウスに初めて訪れる方など幅広い層の方々に多数お越しいただくことができた。それぞれのメンバーの個性を生かし、音楽が持つ本来の魅力を改めて感じさせるステージとなった。

d. True Colors MUSICAL ファマリー「ホンク！～みにくいアヒルの子～」

開 催 日 2020年2月15日(土)～16日(日)
場 所 東京建物 Brillia HALL (豊島区立芸術文化劇場)
出 演 劇団 Phamaly、鹿子澤拳、東野寛子
来場者数 15日 581名
16日 517名 合計：1,098名

内 容

アメリカで30年前に障害者の有志によって設立され、現在まで、芸術活動を望む障害者の就労・自立支援を続けている劇団「Phamaly」と、日本から障害のあるアーティスト鹿子澤拳と東野寛子が参加し、「ホンク！～みにくいアヒルの子～」を上演した。様々な障害のある俳優たちが、それぞれの個性を生かした舞台は、多くのお客さんの好評を得た。また、上演のほかに、障害者や子供を対象にしたタッチツアーや作品解説を実施。タブレット字幕や音声ガイドなどのアクセシビリティも強化した。アフタートークでは、芸術監督・リーガンリントンや出演者

とともに、True Colors Festival のアンバサダーを務める RYUCHELL、乙武洋匡らも登壇し、舞台の制作秘話や多様性などについてそれぞれの体験談を披露した。

e. その他

2020年3月5日～8日にプログラムの第5弾として演劇作品「True Colors DIALOGUE」の上演をスパイラルホールにて予定していたが、新型コロナウイルスの感染拡大予防のため、2020年2月19日に公演実施を中止した。同年夏までに延期をする可能性を探ったが、最終的には中止の判断を行った。

その後、2020年3月23日に、2020年夏までに予定していた「True Colors Festival」のすべてのプログラムについても中止し、準備作業を行っていた2020年4～6月に開催予定のプログラムについても、準備作業を中止し、キャンセルに伴う事務作業などを行った。

III. 総務報告

1. 評議員・役員に関する事項

(1) 評議員

吉倉和宏 2018年5月22日就任 日本財団常務理事

菅井明則 2018年5月22日就任 笹川平和財団常務理事

中西由郎 2016年10月3日就任 元日本ゲートボール連合専務理事

(2) 理事

横尾紀彦(理事長) 2018年5月22日再任 につぼん文楽プロジェクト理事長

小澤 直 2018年5月22日再任 日本財団パラリンピックサポートセンター常務理事

菅原悟志 2018年5月22日就任 ブルーシー・アンド・グリーンラド財団理事長

(3) 監事

山田恵一郎 2018年5月22日就任 笹川平和財団部長

以上 2020年3月31日現在

2. サテライト事務所の設置

True Colors Festival の運営に際し、これまで以上に業務委託会社との連携が必要と見込まれるため、2019年6月1日、業務委託先の株式会社ロフトワークとの間で賃貸借契約を締結し、同日、サテライト事務所を東京都渋谷区道玄坂 1-22-7 に設置した。

当初、2020年7月に開催する True Colors Festival まで事務所を設置する予定であったが、新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、その後の事業を中止することになったため、2020年3月24日、(株)ロフトワークに賃貸借契約の中止を伝えた。

なお、サテライト事務所は、2020年4月中に退去の予定である。

3. 職員について

今後の事業展開に必要な人員を確保するため、2019年5月に2名を有期契約職員として、2019年7月に1名を人材派遣会社から、2019年11月1名を臨時職員として採用した。

また、2019年4月、すでに雇用している職員10名と契約の更新をした。

なお、2019年12月～2020年2月にかけて、4名の有期契約職員が退職した。